

2018年6月19日掲載 輸送経済新聞



大宮支店は交通の便を生かし関東、東北を中心に1日約320tを発送

に近い立地を生かし、流通大手向けの食料品、建築用塗料などの工業製品を多く扱う。運行便約70便は他店からの立ち寄りや復路の始発便を充てている。発送は1日約320t、到着は同約230tで、ともに前期比で3〜5%増えた。

残貨対策を強 化し品質磨き

営業拡大へ「まずは既存顧客の業務を拡大していきたい」（高橋昌也大宮支店長）。品質を高めるため、今期は発送での残貨対策を



3・4階部分は倉庫。保管・流通加工と特積み輸送の複合機能が強い

入。地元志向や子育て・介護など家庭の事情で自宅を離れたくない従業員ニーズに対応できる仕組みとした。また集配ドライバーはチーム内で輪番で勤務時間を調整し、残業を抑制してい

第一貨物・大宮支店

交通の要衝に大型拠点 特積みとロジ一体で

第一貨物（本社・山形市、武藤幸規社長）の大宮支店は、東京支店（東京都江東区）を核に首都圏各地の圏央道沿いに拠点を置く「ハブ・アンド・スポーク」構想の下で、東北の玄関口の役割を担う。交通の便の良さとして、一時保管から流通加工・輸送まで一貫した物流サービスを提供できる点が強みだ。

平成24年に旧岩槻と旧足立の2支店を統合し誕生。さいたま市はじめ川口、上尾、春日部など7市町をカバーする。敷地面積約2万2600平方メートル。鉄骨造4階建てで延べ床面積は2階事務所・休憩所を含め約2

万9700平方メートル。荷役用エレベーター15基、ドックレベラー2基を備える。

テコ入れする。立ち寄り便も活用しながら積み残しを防ぐ。

パート・アルバイトも含め特積み86人、倉庫42人の計128人が勤務。集配車は2ト、4トを中心に計60台が稼働する。発送先は重量

を因る上では、働き方改革を進め従業員の定着を促すことが重要。大宮支店を管轄する東京支社では「労働時間60・80（ろくまる・はちまる）」を今期のス

ロ・カンに掲げ、事務・作業職で月残業60時間、集配ドライバー職で80時間の目

車道岩槻インターチェンジ

標を設定し、時短に取り組んでいる。地域社員制度をスタートし

事務職では時差出勤や全社で導入している、土曜を中心とした月2回程度の短時間勤務に加え、今年4月以降、地域社員制度を導

「待遇改善、雇用競争力の強化、投資、サービス向上の原資確保へ適正運賃収受にも引き続き、注力していく」（遠藤誠取締役東京支社長）方針だ。

協業が時代のキーワードとなる中、しゅん工当初から久留米運送が入居し施設を共同利用。久留米運送の東北向け貨物は第一貨物と集約して発送し、久留米運送にはリードタイム短縮、第一貨物には積載率アップにつながっている。

（矢田 健一郎）